OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	センターだより　大阪大学大型計算機センターニュース　No.20
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1976, 20, p. 20-36
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65294
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

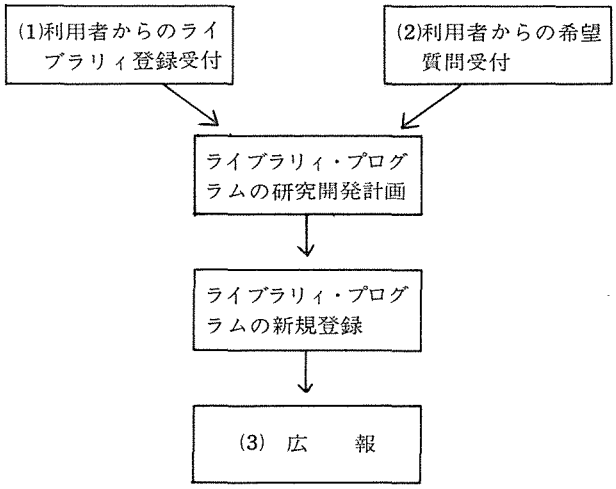
プログラム・ライブラリィ管理・運営方式について

プログラムライブラリィの管理・運営は，従来明文化されないままに，常識的方法によりなされていました。今般，従来の管理・運営方式を，プログラム・ライブラリィ管理・運営方式の内規として明文化致しました。センター・ニュースにより，本内規の内で利用者に直接関係する部分のみについて広報致します。

利用者からのプログラム・ライブラリィ登録申請及び希望・質問の受付け及びセンター内処理は，概略右図のとうりです。

以下，各項目ごとに説明致します。

プログラム・ライブラリィ管理・運営方式



(1)利用者からのライブラリィ登録申請受付けについて

利用者がライブラリィ・プログラムの新規登録を申請する場合には，庶務掛で申請用紙を受けとり記入して，庶務掛に提出して下さい。ただし，そのプログラムを，ライブラリィとして採用するか否かは，プログラム・ライブラリィ開発小委員会の審議を経て，研究開発計画専門委員会で決定されます。ライブラリィ・プログラムの新規登録は次の申請用紙によりおこなって下さい。

プログラム・ライブラリィ 登録申請書

昭和　　年　　月　　日

大阪大学大型計算機センター長　殿

(申請者)所　属

官職名

氏　名　　印

貴大型計算機センターのプログラム・ライブラリィとして，下記プログラムを登録いたしたいので，必要資料を添えて申請します。

記

プログラム名

呼 出 し 名

添 付 資 料

1．Identification

2．使用説明書

3．テスト結果と使用例

4．流れ図

5．ソース・プログラム・カード

6．ソース・プログラム・リスト

「Identification の説明」書の記入上の注意

1．太線の枠内のみ記入して下さい。

2．プログラム名は，“連立一次方程式（掃出し法）”のように内容を示す名称を記入して下さい。ただし，サブルーチン及び関数の場合に限り引用の際の“呼び出し名”も記入して下さい。

3．利用者の義務の欄は，利用者がライブラリィ・プログラムを利用した研究成果を発表するときに，当該プログラム名及び作者名を明記する必要があるか否かを示して下さい。

4．使用ＯＳの欄は，このプログラムをテストした機種及びＯＳ名を記入して下さい。なお，ＯＳ名が不明の場合は，テスト年月日を記入して下さい。

5．他の欄は，該当項目に○印を付し，必要事項を（　）内に記入して下さい。

6．その他必要な事項があれば，備考欄に記入して下さい。

Identificationの説明（太線の枠内のみ以下の形式に従って記入して下さい。）

1	登録番号				
2	分類コード				
3	プログラム名				
4	呼び出し名(引用名)				
5	プログラムの形式	a.コンプリート・プログラム　b.サブルーチン　c.関数			
6	作成者名・作成年月日	作成者名		作成年月日	昭和　年　月　日
7-1	改訂者名・改訂年月日	改訂者名		改訂年月日	昭和　年　月　日
7-2	手を加える前のプログラムの登録番号・名前等	登録番号			
		プログラム名			
8	作成者の連絡先			TEL	－　－　（内線　）
9	利用者の義務	a.プログラム名と作成者名を明記する。 b.明記の必要なし。 c.その他（　）			
10	ソース・プログラムの公表	a.する。　b.しない。　c.相談のうえ			
11	使用OS	機種名		OS名	
12	データ入力のための使用周辺機器	a.磁気テープ（入力（　）本／出力（　）本／中間（　）本）　b.ディスクパック　c.磁気ドラム d.カード・リーダー　e.カード・パンチ　f.ライン・プリンター g.その他（　）　h.なし			
13	使用言語の種類	a.FORTRAN　b.ALGOL　c.COBOL　d.PL/1 e.アセンブラー（名前　）　f.その他（名前　）			
14	使用メモリー	a.コアー（　）語　b.周辺機器の種類（12のａｂｃ）（　）語			
15	備考				
16	受付者名・受付年月日	受付者名		受付年月日	
17	登録者名・登録年月日	登録者名		登録年月日	
18	サービスの方法 ソース・プログラム	a.ソース・リスト公開　b.ソース・リスト非公開			
	相対形式プログラム	a.ディスクパック（ファイル名／編集年月日／削除年月日）　b.磁気テープ（ファイル名／編集年月日／削除年月日）			
	絶対形式プログラム	a.ディスクパック（ファイル名／編集年月日／削除年月日）　b.磁気テープ（ファイル名／編集年月日／削除年月日）			
19	備考				

添付資料の説明

1．Identification

センター指定の様式に従って必要事項を記入して下さい。

2．使用説明書

適宜の様式により次の順序に従って記載して下さい。

2.0.プログラム名

Identification に記入した名称を記載して下さい。

2.1.呼び出し名及び仮引数

サブルーチン・副プログラム又は関数副プログラムの場合のみ記載して下さい。

2.2.計算内容の説明

適宜の形式により，如何様な計算方式を使って何を計算したのか，また，プログラムの特徴は何であるかについて詳細に記述して下さい。なお，参考文献のある場合は，必ずこの章の後にまとめて記載して下さい。

2.3.入出力変数の説明

プログラムを使用の際の入出力変数について，型，精度及び変数の意味を説明して下さい。また，配列名である場合はその次元及び最大の大きさを明示して下さい。(サブプログラムを呼ぶときと戻るときに各引数に何が入っているかを説明して下さい。)

ＣＯＭＭＯＮで変数の引渡しがある場合は，型を示して下さい。

2.4.入力データの形式

入力データを必要とするときは，データ・カード１枚ずつにつきパンチされるデータの種類や書式を詳細に分り易く記載して下さい。実際にパンチされたカードの像あるいはデータ・シートを添付することなどによって分り易くして下さい。

2.5.出力データの形式

如何なるデータが如何なる形で出力（印字）されるかを示して下さい。

2.6.エラー・メッセージ

プログラムの中でエラー処理をしている場合は，如何なる場合にエラーとなって，如何なる処理をするか，如何なるエラー・メッセージを印字するかを記載して下さい。

2.7.コントロール・カードの付け方

特殊なジョブ制御文を必要とする場合（磁気テープ，磁気ディスクを使ったり，その他特殊処理を行う場合）は，そのジョブ制御文の付け方を記載して下さい。

2.8.所要時間

一般的に述べることは困難と思われるが，利用者の指針になるように，具体的例題でも良いから，大体の目安を記載して下さい。

2.9.精　　度

一般的に述べることは困難と思われるが，利用者の指針になる程度のことは必ず記載し

2.10. 制限事項

引数の値の制限，その他使用上の制限事項があれば，記載して下さい。

2.11. 使用ルーチン

他のライブラリィ・プログラムを使用している場合は，そのプログラム名を明記して下さい。

2.12. 備　　考

その他の必要事項がある場合に記載して下さい。

3．テスト結果と使用例

プログラムの精度，計算速度などに関し行ったテストについて，具体的に記載して下さい。なお，テストはできる限りプログラムの特色を知り得るような例題を用いて行うことが望ましいです。

使用例については，仮引数その他変数及び定数の入出力の方法が一目で分るような例題を，ライブラリィ・プログラムを使用したソース・プログラムの一部分として示して下さい。

4．流　れ　図

複数個のプログラムから成る場合にのみ，“プログラム・ライブラリィ登録申請書”に添付して下さい。

副プログラム相互の関係が理解できる程度に記載して下さい。

5．ソース・プログラム・カード

カードの順序が混乱することを避けるため，通し番号を付けて下さい。

6．ソース・プログラム・リスト

計算機より出力されたリストを添付して下さい。複写されたリストは原則として受付けられません。

(2)利用者からの希望，質問の受付けについて

プログラム・ライブラリィに関する利用者の希望・質問については文書で庶務掛にて受付けます。なお，受付けられた希望・質問は，その内容に応じて，プログラム・ライブラリィ管理小委員会，プログラム・ライブラリィ開発小委員会，又は，研究開発計画専門委員会に報告されます。希望・質問票は次の様式です。（庶務掛，窓口に置いています。）

(3)広報について

使用上の説明及び管理・運営状況の概要については，使用説明書，センター・ニュース等によって利用者に知らされます。公開できるソース・リストは，センター内で閲覧できます。なお，ソース・リストは，特に申請のあった利用者にのみ渡すことができます。

(4)プログラム・アブストラクトについて

ライブラリィとして採用されないが，情報として利用者に知らせる必要のあるプログラムについては，簡単な内容説明付きで紹介されます。これについては，現在その様式を検討中であり，後日改めて広報致します。

受番付号		受年月日		受付者	

提出年月日	昭和　　年　　月　　日

希　望　・　質　問　票

課題番号		フリガナ 氏　名	
連絡先	(名　称) TEL (市外局番　　)(局番　　)(番号　　)(内線　　)		

(註)　(1), (2)の該当する欄で，希望又は質問の何れかに○印をつけて下さい。
(3)は具体的にその内容を記入して下さい。

(1)　希望・質問の内容

希	質	事　　項
		1．バッチ処理における受付・返却及びジョブ処理に関すること。
		2．利用者ファイルの利用に関すること。(同使用説明書を含む。)
		3．ＴＳＳの利用に関すること。(同利用の手引を含む。)
		4．ドラフターの利用に関すること。(同利用の手引を含む。)
		5．センター・ニュース及びセンター利用の手引等広報に関すること。
		6．その他　　)

(2)　プログラム・ライブラリィに関する希望・質問の内容
(プログラム相談関係は除外)

希	質	事　　項
		ライブラリィ・プログラムの新規開発に関すること。
		ライブラリィ・プログラムのディスクへの登録に関すること。
		ライブラリィ・プログラムの内容に関すること。
		ライブラリィ・プログラムの仕様書に関すること。
		その他)　　)

(3)　希望・質問の内容（プログラム・ライブラリィについては，できる限り具体的プログラム名を明記してください。

→

大阪大学大型計算機センター

回　答 年月日		回答者	所　属	氏　名	内　線

回　答

備　考

センター・ニュースに関するアンケートの集計結果

教育広報専門委員会

第２回アンケート調査に御回答をお寄せ下さいました方々に厚く御礼申し上げます。調査に当たり，アンケート用紙を，センター・ニュースと同封してお送りしましたので，この調査結果にあるいは多少の偏倚のかかったことになったかも知れぬとの御指摘をうけました。以後はこのようなことのないようにしたいと存じます。御希望の多い項目については，実施可能なものから実現できるよう各方面にはたらきかけることに致します。

アンケートの回収率は13.4%でした。(発送数1,340，回答数180)

		回答数	%
問　1	センター・ニュースをどのくらいお読みですか。		
	1．ほとんど毎号読む	82	45.56
	2．ときどき読む	84	46.67
	3．ほとんど読まない	13	7.22
	4．その他	1	0.56
	無回答	0	0
問１－１	お読みにならない理由をお知らせください。		
	1．忙しいから	3	23.08
	2．必ずしも毎号届かないから	3	23.08
	3．内容がおもしろくないから	3	23.08
	4．役に立たないから	2	15.38
	5．その他	2	15.38
	無回答	0	0
問　4	今までのセンター・ニュースの記事内容の程度はどうでしょうか。		
	1．適当である。	121	67.22
	2．やさしい	11	6.11
	3．難しい	39	21.67
	4．その他	2	1.11
	無回答	7	3.89
問　5	センター・ニュースのページ数はどれ程がよいと思いますか		
	1．今まで程度	139	77.22
	2．もっと厚い方がよい	16	8.89
	3．もっと薄くてよい	21	11.67
	無回答	4	2.22
問　6	センター・ニュースの刊行回数はどれ程がよいと思いますか		
	1．隔月刊	89	49.44
	2．季刊	50	27.78

	3．不定期刊	35	19.44
	4．その他	1	0.56
	無回答	5	2.78
問　8	センター・ニュース配布方法についてご意見をお示しください。		
	1．直接個人宛配布	66	36.67
	2．連絡所経由による一括配布	36	20,00
	3．連絡所経由による個人宛配布	68	37.78
	4．その他	2	1.11
	無回答	8	4.44
問　9	速報の配布についてご意見をお示しください。		
問9－1	（配布）		
	1．確実にとどいている。	153	85.00
	2．必ずしもとどいていない	26	14.44
	無回答	1	0.56
問9－2	（配布のタイミング）		
	1．丁度よい	137	76.11
	2．遅い	37	20.56
	無回答	6	3.33
問　10	今まで手引類（センター利用の手引、サブルーチン・ドラフター利用の手引）を別冊で刊行し、部分的にセンター・ニュースに再収録してきましたが、このような典型的な手引類の刊行についてのご希望をお書きください。		
	1．今後とも手引類を別冊として刊行してほしい	169	93.89
	2．センター・ニュースにだけ収録されておればよい	10	5.56
	無回答	1	0.56

問2　いままでのセンター・ニュース記事のうち、興味深く、また役に立った記事は何でしょうか。下記のリストから3つを順位をつけてご指定ください。

	1	位	2	位	3	位	合　計
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数
1．巻頭言、随想、あいさつ	2	1.11	2	1.11	5	2.78	9
2．センター紹介	5	2.78	4	2.22	8	4.44	17
2．お知らせ	26	14.44	11	6.11	6	3.33	43
4．センターだより	12	6.67	15	8.33	11	6.11	38
5．講習会予定	4	2.22	7	3.89	8	4.44	19
6．業務報告	1	0.56	3	1.67	7	3.89	11
7．他大学大型計算機センターだより	1	0.56	1	0.56	3	1.67	5
8．運用会議報告	1	0.56	1	0.56	1	0.56	3
9．利用者の声	1	0.56	6	3.33	5	2.78	12
10. センター利用の手引	48	26.67	25	13.89	19	10.56	92
11. プログラムノート	15	8.33	14	7.78	10	5.56	39
12. プログラム相談	4	2.22	5	2.78	9	5.00	18
13. システムの現状	7	3.89	18	10.00	10	5.56	35
14. 解説	21	11.67	8	4.44	10	5.56	39
15. ALGOL	0	0	0	0	0	0	0
16. BPL	0	0	0	0	0	0	0
17. COBOL	0	0	1	0.56	0	0	1
18. BASIC	1	0.56	0	0	0	0	1
19. NEAC-FORTRANの比較	0	0	6	3.33	1	0.56	7
20. 科学計算用ライブラリー	12	6.67	16	8.89	14	7.78	42
21. FORTRANのダイアグノスティックメッセージ	6	3.33	5	2.78	9	5.00	20
22. UEPメッセージ	2	1.11	7	3.89	5	2.78	14
23. TSS	1	0.56	3	1.67	4	2.22	8
24. ドラフター関係	3	1.67	6	3.33	8	4.44	17
25. ディスク・ワーク・ファイル	2	1.11	1	0.56	5	2.78	8
26. NEACタイパー	1	0.56	0	0	1	0.56	2
27. 数値解析	0	0	8	4.44	5	2.78	13
28. その他	1	0.56	0	0	2	1.11	3
29. その他	0	0	0	0	0	0	0
30. その他	0	0	0	0	0	0	0
無回答	3	1.67	7	3.89	14	7.78	24

問３　今後、センター・ニュースにどのような企画をお望みになりますか。問２のリストから３つを順位をつけてご指定ください。リストに加えたいものがありましたら、「その他」の欄へ記入して下さい。

	1 位		2 位		3 位		合 計
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数
1．巻頭言，随想，あいさつ	1	0.56	1	0.56	0	0	2
2．センター紹介	2	1.11	3	1.67	1	0.56	6
3．お知らせ	9	5.00	3	1.67	2	1.11	14
4．センターだより	5	2.78	4	2.22	5	2.78	14
5．講習会予定	2	1.11	5	2.78	5	2.78	12
6．業務報告	1	0.56	1	0.56	0	0	2
7．他大学大型計算機センターだより	5	2.78	5	2.78	2	1.11	12
8．運用会議報告	0	0	1	0.56	1	0.56	2
9．利用者の声	8	4.44	2	1.11	9	5.00	19
10．センター利用の手引	10	5.56	10	5,56	5	2.78	25
11．プログラムノート	7	3.89	9	5.00	7	3.89	23
12．プログラム相談	7	3.89	10	5.56	8	4.44	25
13．システムの現状	9	5.00	9	5.00	10	5.56	28
14．解説	17	9.44	6	3.33	8	4.44	31
15．ALGOL	2	1.11	0	0	0	0	2
16．BPL	0	0	1	0.56	0	0	1
17．COBOL	1	0.56	1	0.56	1	0.56	3
18．BASIC	1	0.56	1	0.56	3	1.67	5
19．NEAC-FORTRANの比較	5	2.78	4	2.22	4	2.22	13
20．科学計算用ライブラリー	23	12.78	19	10.56	14	7.78	56
21．FORTRANのダイアグノスティックメッセージ	7	3.89	8	4.44	2	1.11	17
22．UEPメッセージ	2	1.11	7	3.89	7	3.89	16
23．TSS	4	2.22	4	2.22	7	3.89	15
24．ドラフター関係	8	4.44	14	7.78	6	3.33	28
25．ディスク・ワーク・ファイル	4	2.22	4	2.22	3	1.67	11
26．NEACタイパー	0	0	0	0	0	0	0
27．数値解析	9	5.00	13	7.22	23	12.78	45
28．その他	1	0.56	0	0	6	3.33	7
29．その他	0	0	1	0.56	0	0	1
30．その他	0	0	0	0	0	0	0
無回答	30	16.67	34	18.89	41	22.78	105

昭和51年度利用者講習会計画

月　別	講習会別	内　　容	備　　考	募集範囲
4　月 (下旬)	利用者講習会	(1)テバッギング手法(I) ●テバッグ文 ●マップの見方 ●エラーメッセージ (2)ユーザファイル ●＄copyを他のＵＦに移す方法 ●ダンプ方法 ●制御文のパラメータ ●実行形式ファイルの作り方及び修正法	ＪＩＳ7000レベルのフォートランの知識のある人を対象にフォートラン700 固有のデバッグ機能（デバッグ文，マップの見方等）について使用例をあげて説明する。 フォートランプログラミング習熟者を対象とし，ソースプログラムの計算機システムの預け入れ及びそれらの取扱い方法を説明する。	全 地 区
5　月 (中旬)	利用者講習会	(1)ドラフター ●サブルーチン ●応用面の説明 (2)ライブラリィー ●使用上の注意	入出力図形表示装置としてＸＹプロッターと同系統に属するドラフターが設置されているが，この概要，使用例を途べ簡単なプログラム作成法，サブルーチンの説明を行う。なお実習を含むこともある。 初級者を対象に，ライブラリィ・プログラム利用方法をフォートラン言語，結合処理のなされ方等の面から説明する。	全 地 区
6　月 (上旬)	利用者講習会	(1)媒体変換用Ｆacom Ｕ200システムの使用法 ●オウンコーディング ●コマンド	入出力媒体変換のためにＵ200が設置されているが，ＣＲ→ＰＴ，ＣＲ→ＣＲ，ＰＴ→ＣＲ，ＰＴ→ＰＴの場合について具体的使用法を説明する。	全 地 区
6　月 (下旬)	利用者講習会	(1)ＴＳＳ ●基本原理 ●システムとコマンドの種類，容量，サブルーチンの使い方	ＴＳＳのコマンド及びファイルシステムの説明，フォートランプログラムにより実習，習得。 フォートランプログラムの経験者を対象にします。	第６地区
9　月 (中旬)	プログラム相談員 指導員講習会	(1)オーバーレイ手法 ●中間書込，オーバーレイ手法，フークファイル ●大容量の領域をもつ場合の計算 (2)デバッギング手法Ⅱ ●プログラム相談システム	中級者（フォートラン習熟者）を対象に，大型プログラムのモジュール化と主記憶の有効利用について説明する。 初級から上級者のすべてを対象とする。フォートラン・デバッギングの形式的技法について様々の実例を混えて説明する。	プログラム相談員 指導員

月　別	講習会別	内　　容	備　　考	募集範囲
10　月	利用者講習会	(1)ＴＳＳ ●BASIC, COBZL　O	トォートランプログラム経験者で6月開催のＴＳＳ講習会の受講者が望ましい。	第６地区
11　月 （中旬）	利用者講習会	(1)システムの現状	全利用者を対象に，システムの現状，運用上の諸問題点など，システム全般についての解説を行う。	全　地　区
		(2)フォートラン ●ワークファイル中心	ＪＩＳ7000レベルのフォートランの知識のある人を対象にフォートラン700 におけるＪＯＢ実行中の作業ファイル（ワーク・テープ，ワーク・ディスク）の初歩的な使用法について必要なコントロールカードの具体例も含めて説明する。	

速　報　集　録

速報No.32, No.33のうち必要な事項のみを掲載します。

〈No.32より〉

1．ジョブ区分について

昭和51年1月6日(火)から次のジョブ区分により運用しています。

区　分	CUP時間	印刷頁数	カード出力	メモリサイズ	カード入力数	作業用ファイル		利用者ファイル	ドラフター
						テープ	ディスク		
OPN JOB	30秒	30	0	120Kch	1,500	不可	不可	不　可	不　可
A　JOB	5分	100	0	240Kch	4,700	2	1	可	不　可
B　JOB	15分	200	1,000	440Kch	4,700	2	1	可	可
C　JOB	60分	500	2,000	800Kch	4,700	3	1	可	可

2．利用者ファイルについて

集団ディスクパック装置等の増強により，ファイル容量が増加されましたので希望者は，所定の利用者ファイル開設申請書を提出して承認を受けて下さい。

3．DYNAMO 2200の使用について

本年2月2日(月)から，シミュレーション用言語の一つであるDYNAMO2200（Dynamic Model 2200：NEC提供)の使用が可能となりました。使用法等は次のとおりです。

なお，使用法の詳細についてはセンター2階のデバッグ室に備えてあります。

(1)　JOB区分

作業用ファイル等の関係からB（利用者入力可能）及びC JOBで依頼して下さい。

(2)　ジョブ・コントロール・カード

```
    Cal 1          6        11                16          21
      $ NO                        BS000          001
      $ NAIL
      $ JOB                      KKKKKKKKKK
      $ LIMIT                      1000          200, 0
1*    $ DYBGN
          ↕                 (DYNAMO2200)
                            (ソースカード)
2*    $ DYEND
      $ FORTRAN                  , LIST          , MAP
3*    $ LINK                     , MAP }          Cal1
      $ RUN                                  or $LINKRUN
      $ EOJ
```

(注)

1* は, DYNAMO2200 プロセッサに必要なカードで, DYNAMO2200 のソースカードの最初を指す。

2* は, DYNAMO2200のソースカードの終りを指し, 実行に必要な FORTRAN カード LINKLOAD カードを区分け, etcのEND処理をする。

3* は, 従来通りのFORTRAN JOB CONTROL カードを挿入するだけで DYNAMO の FORTRN JOBは, 実行する。ただし, WORK TAPE etcのASSIGNは不必要。
$FORTRANで, SOURCE LIST OBJECT. INS MAPの出力の指定。
$LINKで, LINK MAPの指定ができる。
$RUNで, 実行NAMEは, "CENTER"となる。

(3) マニュアルについて

DYNAMO 2200のマニュアルとしては次のものがあります。購入を希望される方は, センター・ニュースのマニュアルの入手方法を参照のうえ直接日本電気宛お申し込み下さい。

- DYNAMO2200説明書
- DYNAMO2200操作法説明書
- DYNAMO2200文法説明書

〈No 33より〉

(1)昭和51年度利用申請書の取り扱いについて

昭和51年度の利用申請書受付は昭和51年2月16日(月)から始めます。

(1)昭和50年度の申請利用期間も残すところ2月, 3月の2ケ月となりました。

利用者の皆さんにとって, 一年で最とも多忙かつ重要な時期ではないかと思われます。過去のデータがそのことを如実に物語っています。と同時に阪大センターにとっても新年度の利用申請書受付事務に忙殺されるシーズンでもある訳です。加えて, 毎年のごとく利用申請書の記載不備（コードの誤記入, 記入もれ, 印もれなど）が多くて困っています。このことは, 直接利用者自身に不利益となってはね返ります。すなわち利用申請書の承認や計算機への課題登録が遅れるという事実です。特にコード誤記入は, その後の手続においても他の利用者へ少なからず迷惑が及びます。コード表は各連絡所に常備してありますので, 特に誤りのないよう注意して下さい。御協力をお願いします。

この速報は各地区協, 連絡所へも送付してあります。

なお, 申請書用紙は例年のとおり, 各地区協, 連絡所及び阪大センター一般受付に常備してあります。

(2)リモート・バッチ・システムの利用申請書の取り扱いについて

リモート・バッチ・システムについては，センター・ニュースNo.19で紹介しました通り，現在大阪教育大学と徳島大学の２端局をもって運用されています。このシステムの利用を希望される利用者は，本センター及び当該端局の利用に関する諸規程を承知のうえ従来の利用申請書とは別にリモート・バッチ用の利用申請書を，当該大学の端局責任者の承諾を得て，大阪大学大型計算機センターへ申請することになっています。従来の利用方法とはおのずとその態様を異にしていますので，間違いのないよう注意して下さい。

なお，リモート・バッチ利用申請書は各端局に常備してあります。

(2)昭和50年度利用報告書の提出について

利用者は，センターを利用して得た結果又は経過の報告書を研究課題ごとに，その研究終了後又は年度末に，センター長に提出しなければなりませんが，その提出期限につきましては，昭和51年４月末日までに提出をなさるようお願いします。

(3)ジョブ毎の負担額表示について

かねてより要望のありましたバッチ・ジョブの負担額出力について，このたびシステムの改造を終え，本年のサービス開始から各ジョブごとに従来のアカウンティング情報に加えて負担額の概算を出力しておりますので御活用下さい。

ただし，ドラフター使用負担額及び利用者ファイル使用負担額は表示されません。

なお，本負担額表示に関し次の点に御留意願います。

1　毎月発送されている利用通知書は細部にわたりチェックを加えたうえで処理しておりますので，本負担額の表示と万が一相違した場合においても利用通知書の方が正しいものです。

2　表示は次のとおりです。

JOB ACCOUNT INFORMATION

KAKIN

KIHON FUTANGAKU	基本負担額
CPU TIME	演算負担額
SHEETS PRINTED	出力負担額(ＬＰ用紙)
CARDS PUNCHED	出力負担額(カード)
TOTAL	合計額

センター・ニュースの刊行時期について

大阪大学大型計算機センター・ニュースの刊行時期は、原則として２月，５月，８月，11月のの予定です。

昭和51年度(前期)
利用者ファイル開設申請の受付について

下記の要領で受付をいたしますので，希望者は，所定の用紙に必要事項記入のうえ一般受付まで申し込んでください。

記

1．受付開始	昭和51年３月１日から（特に継続申請の場合は期限の切れる１週間前までに手続きをしてください。）
2．開設期間	昭和51年４月～昭和51年９月末日
3．申込資格	昭和51年度大阪大学大型計算機センター利用申請の承認を受けた者。
4．開設UOD数	原則として，１人75UOD 以内とするが，特にセンターが認めた場合はこの限りではない。
5．その他	使用頻度の少ないファイルは，その利用者の了解のもとに消去することがある。